

廈門留学生帰国報告会

日本と中国の架け橋

毎年、宜野湾市では友好都市である中国・福建省・廈門市の廈門理工学院へ留学生を派遣しています。平成25年9月〜平成26年8月まで一年間の留学を終えた伊野波なつさんの帰国報告会と田添暢彦さん（沖縄国際大学・沖縄大学講師）の講演会が2月27日（金）、男女共同参画支援センターふくふくにて行われました。

第一部では、「中国語をめぐる旅」と題し、田添さんの講演会が行われました。自身の留学生活や、旅を通して見てきた中国の様子、写真を交えながら紹介されました。

初めて訪れた中国は、言葉は分からなかったものの、中国の文化とふれあう中で「面白い！」だから「また訪れたい」という気持ちが大きくなった。行ってみたいと分からない面白さがある、との話がありました。



帰国報告を行う伊野波さん

第二部では、伊野波さんによる帰国報告会が行われ、写真や報告書を交えながら、廈門市での学校生活の様子や、旅行先での出来事を紹介しました。

授業について

授業が始まった当初は全員が中級クラスだったものの、他の留学生のレベルが高かったため、先生に掛け合い初級クラスを作ってもらえることに。生徒二人だけの初級クラスでは、中国語と英語の二か国語での授業が行われました。

中国人学生のサポートにも支えられ、中国語の聞き取りにも慣れてきた後期からは中級クラスに戻ることができました。

そして留学を終える頃にはHSK(中国語検定)5級を取得。中国語習得への意欲や努力の様子が、報告の中で多くうかがえました。

校内朗読大会で一等賞

5月に行われた詩の朗読大会では、チューターがレコーダーに吹き込んでくれたものを毎日聞き、一緒に練習をしました。最初のうちは、声が出ていないことや、発音について厳しい指導も受けましたが、楽しみながら毎日の練習を積み重ねました。

いい緊張感を持って、納得のいく朗読ができたという本番では、一等賞を受賞。審査委員長からも「発音がとてもよかった」

とお褒めの言葉を頂いたと、嬉しそうに報告しました。

旅先で感じた自身の成長

留学して半年後の一人旅で、語学力の成長を実感することになります。「現地の人たちと話をしてみると、自分が思っていたよりも中国語が通じ、相手が何を言っているか分かるようにもなっていました」と伊野波さんは語りました。積極的に中国の文化体験や人との交流をしていく中で、普段の生活ではあまり感じていなかった成長を実感することができたそうです。

留学での経験を生かす

伊野波さんは、帰国後も中国語の検定取得に向けての勉強を続け、自身が通う大学では中国人留学生をサポートするチューターや中国語通訳のアルバイトを始めると、留学の経験を生かし学び続けています。伊野波さんの今後の活躍に期待しています。



廈門で友人と（左から三番目）

広告

広告掲載に関する問合せは、(有)金城印刷 ☎995-0001

総合印刷センター
有限会社 **金城印刷**
本社 〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町5丁目9-16 TEL(098) 995-0001
那覇営業所 〒902-0073 沖縄県那覇市上間565-1 TEL(098) 835-9475
中部営業所 〒901-2206 沖縄県宜野湾市愛知1丁目5番8-501 マルセイマツヨシ TEL(098) 892-5805
e-mail: info@k0001.jp http://www.k0001.jp/

印刷製本機材OA機器販売
(有)沖縄テクニカル
〒901-0204 沖縄県豊見城市与根95-1
TEL 098-851-8935 FAX 098-851-8936